

平成 21 年度 森林総合研究所北海道支所 研究評議会報告

開催場所：森林総合研究所北海道支所 大会議室

開催日時：平成 22 年 3 月 5 日（金）14：00～17：00

評議会委員：内田 敏博 委員（北海道森林管理局計画部長）

笹 賀一郎 委員（北大北方生物圏フィールド科学センター長）

深沢 博 委員（朝日新聞根室支局長）

北海道支所 出席者：支所長、研究調整監、地域研究監、研究グループ長（5）

研究チーム長（3）、庶務課長、課長補佐、連絡調整室長

北海道育種場出席者：場長、育種課長、遺伝資源管理課長

開会の挨拶に続き北海道支所から、主な活動報告として 1) 研究組織運営・予算の状況 2) 支所の研究課題推進状況 3) 支所の広報活動について説明を行った。質疑応答につづいて、昨年の指摘事項と対応方針について説明した。主要研究取組状況報告では「花粉症対策に向けたカンバ類の花粉飛散時期・飛散量の推定と観測技術構築に関する研究」（支所内プロジェクト）および「スズメバチ類に対する生物防除素材としてのスズメバチセンチュウの能力評価」（科研費）について、説明した。この後、北海道育種場からの平成 21 年度の林木育種事業と研究の概要についての説明が行われた。これらの説明のあと評議会委員から以下のような指摘事項が出された。

指摘事項 1.

国有林をフィールドとして、積極的に利用して欲しい。天然林管理に関しては、国有林も非常に問題視しているので、ぜひとも施業指針等に適切な示唆を与えるような研究成果を期待する。

指摘事項 2

一般人が興味を持つような課題に関しては、積極的に成果の広報を進めるべき。業績評価については、研究職員のモチベーションを下げるようなことのないように配慮した方がよい。